

締約国会議開幕

被爆体験語り会 モ行進

市民社会 多彩な活動

【ニューヨーク＝加來恵】日本政府が核兵器禁止条約第2回締約国会議にオブザーバー参加しならなかっただ。日本原水爆被害者団体協議会（日本原水爆被害者団体協議会）の木戸春子会員は、「黒い雨」被爆について語りました。

原水爆禁止日本協議会（日本原水協）は32人の代表团を本部（オーストリア）事務局長は、締約国会議で被爆体験を語り、派遣。街頭でのデモ行進をはじめ、各國連代表部を訪問するなど積極的に活動を展開しました。

日本原水協代表團は、国連本部で被爆証言を行じ、核兵器の非人道性を訴えました。また、愛知に住む被爆者の金本弘さん、広島の佐久間邦彦さんも、国連内のサイドイベントに参加し、禁止条約を支持・推進するため多彩な活動を行いました。

日本原水爆被害者団体協議会は、核兵器禁止の活動に心ひかれて、核兵器の非人道性を訴えました。

亦生事務局次長が発言。ジョン・ダーリー条項について新日本婦人の会の平野憲美子副会長が発言し、禁止条約を支持・後押ししました。

オーストリア主席、日本原水協共催のサイドイベントでは、禁止条約第1回締約国会議議長国を務めたオーストリアのゲオルク氏が禁止条約について報告。日本と韓国の被爆者、マーシャルの被災者らがそれぞれ裏相を語り、人類と核兵器は共存できないと主張。会場いっぱいの参加者が耳を傾けました。

締約国会議での核兵器の非人道上の影響に関するパネル討論では、日本原水協の木戸春子、國連本部で開かれた国連本部に禁止条約に参加するよう働きかけました。

約が核保有国の手を離れている」と強調。「破滅的な非人道的結果をもたらす核使用を許さない強いメッセージを各国議会から発信しよう」とよびかけました。

日本原水協代表團は、日本政府と積極的に連絡。中韓米国連代表團上級代表、オーストリアのクメント大使、マレーシア、アイルランドの代表と意見交換し、禁止条約が前進していくことを確認しました。

核の傘にある日本や、終身

器保有国のフランス、ロシア

の国連代表部に禁止条約に

参加するよう働きかけまし

た。